

## 第4節 まちづくりの主な課題

### 1. 少子・高齢化への対応

本町においても高齢化は着実に進展しており、今後、高齢化のスピードは一段と速まるものと予想されます。このような状況の中で、介護を要する人のさらなる増加が見込まれ、保健・医療・福祉の一体的なサービスの提供や人材の育成などに加え、高齢者の生きがいづくりなど、誰もが安心して暮らせる環境づくりが課題となっています。

また、少子化が進行し、子どもたち同士の遊びやふれあいが少なくなる中、子どもの社会性を育むとともに、安心して子どもを生み育てられる環境や条件を整えていくことが課題となっています。

### 2. 安全・安心な住環境整備

住民の定住志向を高めるには、安全で安心できる快適な住環境の整備が継続的な課題としてあげられます。

今後大規模災害の発生を見据えたまちづくりが課題となっているとともに、身近なところでは、急速に進行する高齢化等に対応したバリアフリーのまちづくり、犯罪などから住民生活の安全を確保する対策も重要な課題となっています。

このため、あらゆる自然災害に迅速かつ的確に対応できるよう、住民・企業・行政が一体となって総合的な地域防災体制を構築するとともに、住民一人ひとりの安全に対する意識の高揚を図り、事故や犯罪のない安全なまちづくりを推進することが必要です。

### 3. 魅力的な都市環境の向上

まちの魅力は、そこに住む人々が誇りと愛着をもって生きいきと暮らしている姿そのものにあり、このような生活者一人ひとりの個性や意欲が十分に活かせるまちづくりが重要です。

このため、本町のもつ自然的、歴史・文化的風土を活かして、生活や産業と自然の調和したまちのイメージを明確にし、安全性と親しみのもてる都市環境を形成することが必要となっています。

#### 4. 都市拠点の創造とネットワーク化の推進

本町はこれまで、都市基盤の整備を計画的に推進してきましたが、社会の成熟化や価値観の多様化が進む中では、利便性・快適性の確保に加え、住む人や訪れる人を魅了する個性的なまちづくりが求められています。

そのため、現在計画が進められている京奈和自動車道田原本インターチェンジ周辺地区に、地域特性を活かした都市整備の推進を図ることにより、新しい都市の拠点づくりを進める必要があります。また一方では、古くから市街地が形成されている地区や田原本駅前周辺整備をはじめとする既成市街地の利便性向上を推進するなど、住民にとって魅力や誇りとなるような都市の顔づくりを進めることが重要です。

また、これら都市拠点間の有機的な連携を図るため、幹線道路整備の充実を図り、町内の各地域拠点や周辺市町とのネットワーク化を推進することが必要となっています。



## 5. 環境保全への取り組み

近年、住民の環境に対する関心がますます高まりをみせています。本町は自然環境に恵まれたまちですが、人々の暮らしはこの美しい自然に対して、住民一人ひとりが家庭や職場、地域において自然環境に配慮したまちづくりを行い、リサイクルやごみの減量化、資源の節減などに取り組む省資源・資源循環型社会を形成していく必要があります。



## 6. 住民主体のまちづくりへの取り組み

住民が誇りと愛着をもって住み続けることのできる地域社会を形成するには、住民の手による、住民による、住民のためのまちづくりを進めていくことがますます必要となってきています。

現在、本町においては、住民活動はまだまだ活発化には至っていません。このため、今後住民が参加しやすい環境づくりや参加のきっかけづくりが重要となります。

さらに、教育分野や生涯学習、スポーツ事業などに人材を活かしていくとともに、まちづくりをリードする人材の育成に一層努める必要があります。